

～子供の声を聴こう！これからの学校づくり～



魅力だより



No.3

R6. 10月

高校教育課学校教育生徒指導班

2学期がスタートし、まもなく2か月が経ちます。子供たちの様子はいかがですか。

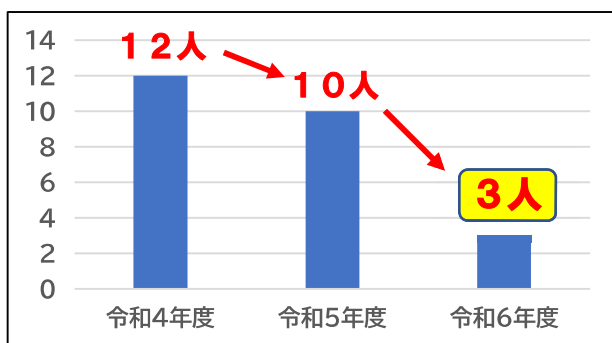
今回は、令和3年度から「魅力ある学校づくり」に取り組んでいる薩摩川内市立川内北中学校の取組・状況を中心に紹介いたします。

国立教育政策研究所 高橋総括研究官は、魅力ある学校づくりについて、「効果は漢方薬的に出てくる」「信じて続けることが大事」と言われています。川内北中学校の状況は、まさに、その通りだと感じました。ぜひ、今後の取組の参考にさせていただけるとありがたいです。

薩摩川内市立川内北中学校の取組（令和3年度から魅力ある学校づくりに取り組む）

「魅力ある学校づくり」に取り組む4年目。令和6年度1学期の新規不登校生徒数が「0」に!!

川内北中学校(全校生徒数 790人)では、令和3年度から「魅力ある学校づくり」に取り組んできました。今年度で4年目を迎えますが、**令和6年度1学期の新規不登校生徒数は「0人」、9月末時点では、「3人」**でした。



【9月末時点の新規不登校生徒数】



これまでの取組

令和3年度

- ・ 「『魅力ある学校づくり』へ向けた研修の充実～より良い人間関係を育む学級経営と『わかる・できる』授業づくりを目指して～」をテーマに、魅力ある学校づくりを開始
- ・ 学力向上と不登校対策として、「①【学級経営】(仲間づくり), ②【授業改善】(わかる・できる授業), ③【関係機関との連携】」を三つの柱に設定



令和4年度

- ・ 重点項目を「みんなで何かをするのは楽しい」「授業に主体的に取り組んでいる」に設定
- ・ 「居場所づくり」「絆づくり」の取組を実施
- ① 学校行事の企画・運営を通じた取組 → 「主体性の伸長」
- ② 教え合いの場を設定: スモールティーチャーの効果的な活用 → 「協働的な学び」の充実



令和5年度

- ・ 中学校区で重点項目を「みんなで何かをするのは楽しい」に設定
→ 「みんなで授業に参加することは楽しい」と思える授業の実践に取り組む。
- ・ 小学校で実践していた「わ・が・と・も」を中学校でも振り返りの視点として活用
→ 互いの存在や考えを認め合う人間関係作りや、教師が励まし、賞賛のコメントを書く機会を設けることにより、自己有用感の効用を図った。

【わがとも】
わ かったこと, わからなかったこと
が んばったこと
と もだちのいいところ
も っとやってみたいこと

今年度の取組 ※これまで行ってきた取組を継続、改善、見直ししながら、PDCAサイクルを実施

① 年度当初の共通実践

- ア 全教職員が、名前プレートを着用
 - イ 困っている生徒等には、「どうしたの」と寄り添う→4・5月に行っていた「どうしたの月間」を年間通じて実施
 - ウ 特別支援に配慮した黒板の使い方（黒板にプリントなどを掲示しない）
 - エ 話し合い活動では、「わがとも」の視点で振り返りを行う（R5～継続）
- ※ 小中連携の一環として、川内北中校区の3小学校1中学校で実施

② 生徒指導提要の理解

- ・ これまで、指導案の中に、生徒指導提要の4つの視点を記載し、授業改善
→ R6:授業や行事で**自己決定の場の提供**を進めていく
- 【体育の研究授業】
- ・ 学習者同士の協力や教え合いを促進するジグソーの手法を用いて、話し合いの場を意図的に設定



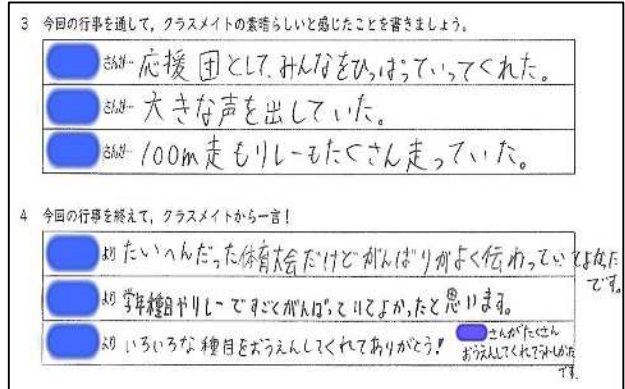
③ 「絆づくり」「居場所づくり」(キャリア教育の視点での見直し)

「キャリアパスポート」の活用

→ 今の自分を見つめ、なりたい自分を考え、そのためにどのように行動していくかを考える。

「チャレンジシート」の活用

→ 行事の前後に自分自身の反省や成長、友達の良さや頑張りを記入。
友達からのフィードバックを通して、自己肯定感や自己有用感を高める。



紹介コーナー 鹿児島県立薩摩中央高等学校 ~ 薩摩中央高校魅力化プロジェクトの取組の様子 ~
令和5年度から「魅力ある県立学校づくり」に取り組んでいます。

質問事項	R5年度 2年生	R6年度 3年生
学校が楽しい	48.1	56.1
みんなで何かをするのは楽しい	51.9	63.4
授業に主体的に取り組んでいる	33.3	31.7
授業がよく分かる	31.5	23.1

意識調査の結果を基に、学年部毎に共通実践事項を決定



- ~薩摩中央高校魅力化プロジェクト~
9月18日の話し合いの様子から
- 1 意識調査の結果を分析
 - 2 意識調査の結果から、一つの項目を選定
 - 3 「あてはまる」の値をあげるための共通実践事項を、学年毎に決定
 - 4 見積もり値を決定
 - 5 共通実践事項と見積もり値をメモし、意識して取り組む

各学校では、取組を進める中で、不明なことや疑問に思うことが出てくることと思います。ちょっとしたことでも、どうぞお気軽にお尋ねください。(市町村教育委員会、各学校からでも大丈夫です。)

【連絡先】 高校教育課学校教育生徒指導班 (梶原・福元)
TEL 099-286-5532
Email seitosidou@pref.kagoshima.lg.jp

